

長期戦略:テーマ 「個別研究の活性化」

提出日 2021年 8月 24日

担当部署

II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	長峯研究推進社会連携機構長 (研究推進社会連携機構)	実施計画の 担当部署	研究推進、学長室、総合企画部
-----------------------	-------------------------------	---------------	----------------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
3-(1)-④ 研究力分析ツールの活用方法の検討	2019年度	2021年度	必要なし	不要
内容 個別研究の活性化により、大学全体の研究力を高める。その原則となる競争原理を実施するためには、研究の評価が不可欠となる。研究の評価を行うためにも、現在活用しているエルゼビア社「SciVal」や、科研費採択数・率、論文の量、研究業績 DB 等を活用しつつ、他大学の事例も参考にしながら、関学独自の研究力分析ツールを定める。 (2019年度)研究力を分析するための各要素を他大学等ヒアリングもしながら定める。その素案を研究創発センター会議にて検討のうえ研究推進委員会にて提示し、意見聴取の上、成案を作成・策定する。 (2020年度)全学もしくは一部希望学部を対象に、試行導入することで、データ取得・分析を行い、課題等を確認するとともに、課題に対応した各要素の見直しを行う。最終的な目標(2021年度)としては、「実施計画 3-(1)-③研究業績を評価する仕組みの構築」の中に組み込む。				
	指標名	定義・算式		
指標1	研究力分析ツールを 議論した回数	研究力分析ツールを定めるため、研究推進委員会および研究創発センター会議にて議論した回数		
指標2	研究力分析ツールを 活用した回数	研究力分析ツールを活用して産学連携・外部研究資金の獲得に向けて企画した回数		
指標3				

目標1<指標1> 研究力分析ツールを議論した回数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	4回以上	2回以上	— (実施計画「研究業績を 評価する仕組み」へ移行)			
実績	2回	2回以上				

目標2<指標2> 研究力分析ツールを活用した回数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	0回	2回	3回			
実績	0回	2回以上				

2. ロードマップ

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
研究力分析ツールの作成 と運用	策定段階	①要素確定 ②「研究力分析ツール」 作成	①希望学部へ施行導入 ②課題抽出、要素見直 し、「研究力分析ツ ール」再定義	「研究実績を評価する 仕組み」への移行		
	2022年3月 末段階	—	—	—		
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階					
	2022年3月 末段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】

非公開

経費 単位:万円

2018年度 2019年
度 承認

2020年度 承認

2021年度 承認

2022年度 承認

2023年度

2024年度

左記以降

非公開

人員・人件費 単位:万円

2019年度 承認

2020年度 承認

2021年度 承認

2022年度 承認

2023年度

2024年度

左記以降

非公開

4. 進捗状況・得られた成果

2019年度	【指標1】第1回研究創発センター会議(7/3)、第5回研究創発センター会議(1/8)において研究力分析にかかるツールの比較および実際の数値分析を用いたデモを実施した。特に岐阜大学のアイデアである「戦略的統合データベース」については、幅広いデータを収集・分析が可能であることが判明した。
2020年度	【指標1および2】第2回研究創発センター会議(5/13)における木下記念財団助成金への大学推薦者選定に向け、SciValおよび戦略的統合データベースを利用した。その他、URAによる定例の科研費等外部資金データ分析もこのツールに拠っている。
2021年度	
2022年度	
2023年度	
2024年度	

5. 今後の課題及び方向性

2019年度	2019年度現在、他大学調査を踏まえ「関西学院大学版戦略的統合データベース(仮称)」の構築に向けて調査・試行を進めている。これは学内研究者の研究活動に関する諸データ(SciValのデータおよび分析結果も、全体の一部としてここに含まれる)をベースに、内的・外的様々な変数間の関係性分析を通じて、産学連携や外部研究資金獲得に向けた戦略の考案・検証を可能にするものと期待される。この進捗によっては「研究力分析ツールの活用」の目的を「大学ランキングの向上」から「産学連携・外部研究資金の獲得」という、学内の研究基盤強化に変更することも考えられる。その場合は設定している「指標」「目標」「ロードマップ」についての修正が必要となる。
2020年度	「指標1」について、2019年度に研究創発センターが設置され、本件を同センターが所管して推進していることから、上記のとおり変更した。また、2019年度の課題に記載のとおり、「研究力分析ツールの活用」の目的が当初の「大学ランキングの向上」から「産学連携・外部研究資金の獲得」や「核となる研究群の下での研究クラスターの創出」に変わっており、「指標2」および「ロードマップ」を上記のとおり変更した。
2021年度	「戦略的統合データベース」に関しては、一通りの整備が完了した。電子化されている数値データの多くを取り込むことが可能である。一方で、今後より一層の活用を模索する場合、AIの導入やテキスト分析の手法など、高度な専門知識が必要となる。これらは他制度との兼ね合いや、本学の実情を考慮し見合わせる。本実施計画については終了とし、実施計画帳票3-(1)-③「研究実績を評価する仕組みの構築」にて、活用の方向性を検討する。
2022年度	
2023年度	
2024年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2018年度	研究力分析ツールは、10/5 開催学院総合企画会議にて承認済みです。効果的な活用方法の確立を検討してください。なお、出張旅費についてはガイド内にて対応してください。
2019年度	研究力分析ツールとして SciVal の継続購入を認めます。引き続き、効果的な活用方法の確立を検討してください。
2020年度	研究力分析ツールとして SciVal の継続購入を認めます。引き続き、効果的な活用方法の確立を検討してください。
2021年度	—
2022年度	
2023年度	

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019~2021)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> 研究業績を集積した「KG 版戦略的統合型 DB」の構築し、外部研究資金等獲得に向けた制度やルール作りが必要である。 研究評価は、量的評価と質的評価の 2 つがあり、「KG 版戦略的統合型 DB」は量的評価要素が多く、質的評価要素は SciVal だけであることから、さらなる要素の充実を行う必要がある。 	継続 ・ <input type="checkbox"/> 廃止	<ul style="list-style-type: none"> 本実施計画帳票は、3 年計画であり、3-(1)-③「研究実績を評価する仕組みの構築」へ一本化する。

【フェーズ II (2022~2024)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	